

令和元年度(2019年度)

病害虫発生予察情報 第14号

注意報第7号

北海道病害虫防除所 令和元年(2019年)年8月2日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

水稲のアカヒゲホソミドリカスミカメ多発が継続

高温経過で加害が活発化の恐れ！

発生モニタリングを励行し、適切に追加防除を実施しよう。

アカヒゲホソミドリカスミカメは、斑点米発生の主要原因となるカメムシです。主に水稲の出穂以降に畦畔や雑草地などから第2回成虫が水田内に侵入します。その後、水田内では第2回成虫や第3回幼虫・成虫が籾から吸汁加害して斑点米を発生させます。

本年は、予察灯による第2回成虫の発生が7月中旬に急増しました。また、7月中旬までの秋まき小麦すくい取りや水田内のフェロモントラップによって平年を上回る第2回幼虫・成虫が捕獲されたことから、7月19日付け注意報第5号を発表し、出穂期からの基幹防除ならびに以降の追加防除の適切な実施を呼びかけたところです。その後、予察灯による誘殺、水田内におけるすくい取りなどにより、カメムシの発生量が引き続き多いことに加えて、水田内への侵入活動も活発であることが確認されています。

また、札幌管区気象台発表の7月24日付け3ヶ月予報によると、8月の気温はやや高く、降水量はほぼ平年並と予報されています。さらに、8月1日付け発表の1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の気温は高く、期間のはじめは気温がかなり高くなると予報されています。当面、高温状態が続くと見込まれることから、今後、水田内への侵入活動、水田内における加害活動ともに活発化することが危惧されます。

以上のことから、基幹防除実施以降の追加防除は、例年に増して重要であると考えられます。水田内のすくい取りやフェロモントラップによるモニタリングを励行し、適切な茎葉散布による防除を実施してください。

1. 発生地域 全道

2. 発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯における成虫誘殺数は、いずれの地点においても7月3半旬以降、一貫して平年より多く推移している(表1)。
- (2) 予察田畦畔におけるすくい取り成虫数は、長沼町では7月を通して、比布町では7月4半旬以降、平年よりかなり多い。水田内におけるすくい取り成虫数は、長沼町で7月4半旬以降、比布町では7月3半旬以降、平年よりかなり多い。北斗市においても、7月6半旬に平年を上回った(表2)。
- (3) 一般田における7月6半旬の巡回調査では、8月1日現在で既報告の石狩地方において、水田すくい取りで「きらら397」における追加散布の基準である捕獲頭数2頭以上となる地点は、12地点中5地点に達している。
- (4) 8月1日付け札幌管区気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月は気温が平年より高いと予報されている。また、8月3～9日の期間、気温はかなり高いと予報されている。
- (5) そのため、今後水田内への侵入活動、水田内における加害活動ともに活発化することが危惧される。

4. 防除対策

- (1) 基幹防除に引き続き、以下のとおり発生モニタリングを行い、追加防除の可否を判断する。
 - ①基幹防除に茎葉散布を実施した場合には、2回目散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行う。20

回振りあたりの捕獲頭数が「きたくりん」、「吟風」では3頭、「きらら397」では2頭、「ななつぼし」、「ほしのゆめ」では1頭に達した場合に追加防除を実施する。その後も、上記水準を下回るまで、7～10日間隔で同様の調査とその結果に基づいた追加防除を継続する。

- ②上記基準は、出穂7日後以降7日間ごとのフェロモントラップによる合計捕獲虫数（同一区域内に設置した複数トラップによる平均捕獲頭数）では、「きらら397」は2.2頭、「ほしのゆめ」は1.2頭に相当する。
- ③ジノテフラン液剤、エチプロール水和剤F、スルホキサフロル水和剤Fを使用し、基幹防除を出穂期7～10日後の1回散布とした場合も、散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行い、上記に準じて追加防除を実施する。
- ④基幹防除に水面施用を実施した場合には、出穂3週目にすくい取り調査を実施し、上記に準じて追加防除を実施する。
- (2) 加害期間は水稻の黄熟期までであり、その後の防除は不要である。

表1 予察灯による成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	7	10.2	1	2.3	10	3.5
2半旬	4	29.3	0	1.3	3	4.8
3半旬	540	119.2	24	3.2	17	8.7
4半旬	874	215.1	76	6.5	42	28.0
5半旬	160	372.9	62	13.1	685	35.8
6半旬	1863	736.0	720	57.1	400	54.9
平年数	10		10		10	

表2 予察田におけるすくい取り成虫数^{注)}

月・半旬	長沼町				比布町				北斗市			
	水田		畦畔		水田		畦畔		水田		畦畔	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月2半旬	0	0.0	15.0	0.7	0	0.0	0	0.3	2.5	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.0	6.3	0.7	10.0	0.0	0	0.5	0	0.0	0	1.0
4半旬	2.5	0.9	7.5	2.5	20.0	0.5	15.0	0.0	0	0.5	0	1.3
5半旬	7.5	0.9	31.3	3.4	0	0.8	10.0	1.5	0	1.8	2.5	5.5
6半旬	0	4.1	50.0	11.6	10.0	0.5	0	0.5	7.5	2.5	0	7.0
平年数	7				10				10			

注) 20回振りすくい取り5日当たり換算頭数

付記

北海道地方 1か月予報
(8月3日から9月2日までの天候見通し)

令和元年8月1日
札幌管区气象台発表

<予想される向こう1か月の気候>

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、北海道日本海側で平年並または高い確率ともに40%、北海道オホーツク海側・太平洋側で平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】	北海道地方	10	30	60
【降水量】	北海道地方	30	40	30
【日照時間】	北海道地方	30	40	30

■低い(少ない) □平年並 ■高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目	北海道地方	10	10	80
2週目	北海道日本海側	20	40	40
2週目	北海道オホーツク海側	20	50	30
2週目	北海道太平洋側	20	50	30
3～4週目	北海道地方	20	40	40

■低い □平年並 ■高い